

アグリ筑西

2019 4月号



梅から桜の時期へと移り変わり、いよいよ春本番です。気持ちを新たに、新年度もがんばりましょう！

県西農林事務所 経営・普及部門
 (筑西地域農業改良普及センター)
 筑西地域農業改良推進協議会 発行
 Tel : 0296(24)9206 Fax : 0296(24)6979



筑西地域農業改良普及センターHPへアクセス！→

JA北つくばこだま西瓜部会が日本農業賞「特別賞」を受賞

JA北つくばこだま西瓜部会(筑西市・桜川市)が、NHK・JA全中および都道府県JA中央会主催の第48回日本農業賞集团組織の部において特別賞を受賞しました。この賞は、意欲的に経営や技術の改善に取り組み、地域社会の発展にも貢献している集团組織を表彰するものです。

規模・出荷数量とも全国でも有数の産地であるJA北つくばこだま西瓜部会では、選果選別の等級基準を厳格化することで、市場や消費者からの信頼を向上してきました。また、若手部会員を中心に自らが栽培実証試験を行う「生産技術委員会」を設置し、栽培技術の改善と新品種の実証試験を継続して行う等、部会一丸となって栽培技術・品質の向上に努めています。



筑西市・桜川市が全国に誇るこだまスイカ

これらの活動により、平成18年には1ケース1,653円まで落ち込んだ平均単価を平成29年には2,565円まで向上させ、7億円まで落ち込んだ売り上げを9億6千万円まで伸ばし、見事なV字回復を成し遂げました。審査では、部会員の収益が近年大幅に向上した点や若手部会員の意欲の高さが評価されました。3月9日には、NHKホールにおいて盛大に中央表彰式が開催されました。なお、式の様子は、3月23日午後3時~3時30分[NHK Eテレ]で放送されます。

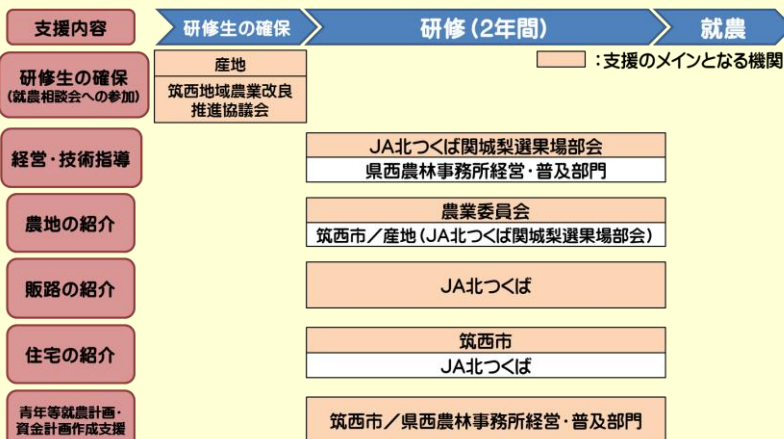
普及センターでは、引き続きこだまスイカの安定生産とブランド力強化を支援し、農家の所得向上を目指していきます。



就農支援事業担当者会議を開催

3月6日、平成30年度第2回筑西地域農業改良推進協議会就農支援事業担当者会議を開催し、協議会メンバーである市・JA・就農支援アドバイザー等、計12名が出席しました。本会議は、関係機関での就農支援に関する情報共有と連携強化を目的に開催しました。

右図) JA北つくば関城梨選果場部会における研修生受入体制(研修から就農までの流れと関係機関の役割分担)



会議では、普及センターから、今年度の就農相談・新規就農者の状況についての情報提供とJA北つくば関城梨選果場部会で整備した研修生受入体制についての事例紹介を行いました。関城梨選果場部会は、梨での新規就農に向けての研修施設等を整備することで、研修希望者を継続的に受け入れます。各担当者は、新規就農者の確保・育成に向けて、関係機関が連携して就農支援にあたることを再確認しました。

普及センターでは、新規就農者の確保、育成に向けた支援を強化していきます。



筑西4Hクラブ イチゴ狩り & 交流会を開催！！



3月9日、筑西市内において、イチゴ狩り & 交流会in筑西市が開催され、若手農業者と農業に興味がある女性の総勢16名が参加しました。

イチゴ狩り & 交流会in筑西市は、筑西4Hクラブが発案した企画で、一昨年、昨年に引き続き3度目の取組みです。若手農業者が主体となって地域農業や自身の取り組みをPRすることで、筑西地域の農業や若手農業者自身に対して関心を持ってもらうことを目的に開催されました。

イベントでは、まず、農場「ファームオアシス」を訪問し、経営主の農業経営士からイチゴ狩りのコツをお聞きした後、班ごとに分かれてイチゴ狩りを楽しみました。参加者は、瑞々しいイチゴを堪能した後、農場隣接のケーキ屋さん「ラシーヌ(同経営)」の見学を行いました。



イチゴ狩りを楽しむ参加者



フリートークで交流を深める参加者

イチゴ狩りの後は市内の式場ダイヤモンドホールに会場を移し、出会いサポーターによる交流会を開催しました。参加した4Hクラブ員は事前にプロフィールスライドを作成するなど準備を進めており、自らの経営や農業に対する熱い気持ちについて、積極的にPRしました。フリートークでは男女の参加者が会話を弾ませており、交流を深めている姿が見られました。

3度目の開催という事もあり、参加者、それを支援する4Hクラブスタッフも自信をもって女性をおもてなしでき、地域農業や若手農業者のPRの場として有意義なイベントとなりました。



ナシの鮮度保持技術「1-MCP処理設備」を導入しました



下妻市果樹組合連合会では、県事業を活用して、本年度より新たな鮮度保持技術である1-MCP処理設備を導入しました。当技術は、国内では既にリンゴで導入されており、リンゴの販売期間延長等を目的に使用されています。ナシ果実は収穫後にエチレンを放出し、自身のエチレンによって成熟が進んでしまいます。1-MCPはナシ果実のエチレン受容体に結合することで、エチレンの作用を阻害し、結果として鮮度保持期間を延長させます。



ナシの1-MCP処理の様子

今回、新たな処理設備の導入により、これまでより効率的に鮮度保持ができるようになり、連合会オリジナル商品である「貯蔵梨」として、高品質な商品を提供することに貢献しました。連合会では東南アジアへのナシの輸出にも取り組んでおり、当技術を活用することで、今後、更なる輸出の拡大が期待されます。



営農情報～畜産たい肥を有効に活用しましょう～



畜産たい肥を土づくりに利用すると、肥料効果があるだけでなく、土壌団粒構造の形成による通気性、透水性、養分の保持性などの物理性の改善、土中の微生物の種類・量の増加による生物性の改善が期待されます。たい肥の肥料成分は畜種によって異なり、牛ふんたい肥は土壌改良効果が高く肥効が長続きし、豚・鶏ふんたい肥は比較的に速効性の肥料効果が期待できます。

畜産たい肥の購入・利用にあたり、(公社)茨城県畜産協会ホームページ (<http://ibaraki.lin.gr.jp>) には「たい肥生産者名簿」が掲載されています。また、同ホームページ上では、簡単にたい肥を利用した施肥設計ができる計算ソフト「たい肥ナビ！」 (<http://ibaraki.lin.gr.jp/taihi-navi/index.html>) をご利用いただけます。是非、ご活用ください。

普及員のひとりごと ～ 今瀬諒司～

昨年度から2年間、「アグリ筑西」の発行を担当してきました。月1回の発行でしたが、産地の様々なイベントや取組を紹介することで、筑西地域の農業の勢いを改めて実感することができました。

新年度からも、野菜担当として、農家の皆さまの所得向上、産地の更なる発展に貢献できるように精進していきますので、引き続き宜しくお願いいたします。

皆さまからのご意見・情報をお待ちしております。